



## けむりはどうしてできるの

### 酸素がたりないとけむりが出る

紙をくしゃくしゃに丸めて火をつけると、けむりがたくさん出ます。これは、丸めた紙の内側にはあまり空気が入らないので、よく燃えないために、けむりになって出ているからです。

紙や木が燃えているときは、燃える物が空気中の酸素とはたらきあって、ほかの物に変わっています。つまり、燃える物が、空気中の酸素のつぶと合体しています。酸素がないと、物は燃えません。

物が燃えるときに酸素がたくさんあると、けむりは、それほど多く出ることはありません。しかし、酸素がたりないと、けむりはたくさん出ます。

物が燃えているときは、酸素と燃える物のつぶは合体していますが、酸素のつぶが少なくなると、酸素と合体できなくなったつぶが、たくさん出てきます。これが、けむりのもとになっています。

### 細かい固体や液体のつぶ

けむりは、落ち葉を集めて燃やすと白っぽいけむり、自動車の排気ガスは、白や青や黒っぽいけむりなど、いろいろな色をしています。けむりは、燃えている物から出ている細かい固体や液体つぶが、空気中にうかんでいるものです。（監修・小川 格）

